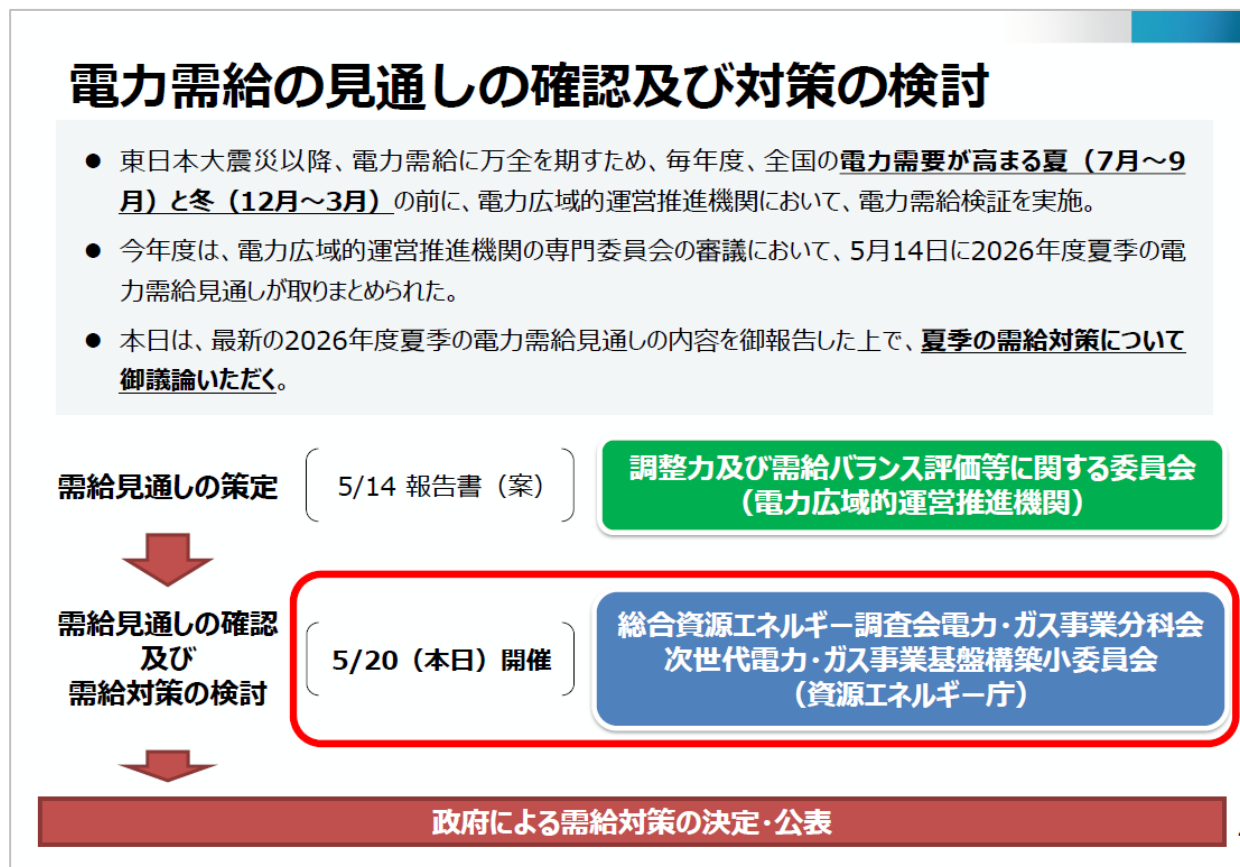


北海道エリアの2026年度夏季の電力需給見通しについて

2026年5月21日
北海道電力ネットワーク株式会社

1 電力需給検証について

- 電力需給対策に万全を期すため、電力広域的運営推進機関において、全国の電力需要が高まる夏と冬の電力需給について検証を実施しています。
- 5月20日に開催された経済産業省の「次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会」において、2026年度夏季需給見通しが報告され、これを踏まえた電力需給対策が取りまとめられました。



2 2026年度夏季（今夏）の需給見通し

- 北海道エリアの今夏需給見通しは、10年に1度の猛暑を想定した電力需要に対して、最も予備率の低い月においても電力の安定供給に最低限必要な供給予備率である3%以上を確保できる見通しです。

【今夏需給見通し（北海道エリア）】

期間 ^{※2}	全国における最小予備率時 ^{※1} (17時)					(参考)全国における最大需要発生時 (15時)				
	7月 前半	7月 後半	8月 前半	8月 後半	9月 ^{※3}	7月 前半	7月 後半	8月 前半	8月 後半	9月 ^{※3}
供給力 [万kW]	454	505	506	499	453	500	553	550	535	477
需要 [万kW]	428	470	470	470	419	438	486	486	486	417
供給予備力 [万kW]	26	35	36	30	35	63	68	65	49	60
供給予備率 [%]	6.1	7.4	7.7	6.3	8.3	14.3	13.9	13.3	10.1	14.5

※1 至近は再エネの増加により、夏季を中心に太陽光の出力が減少する点灯帯の予備率が厳しくなる傾向があり、2024年の検証から最大需要時と最小予備率時の2断面での需給バランス確認を行うこととなった。

※2 今夏見通しから月を前後半に細分化して見通しを算出。

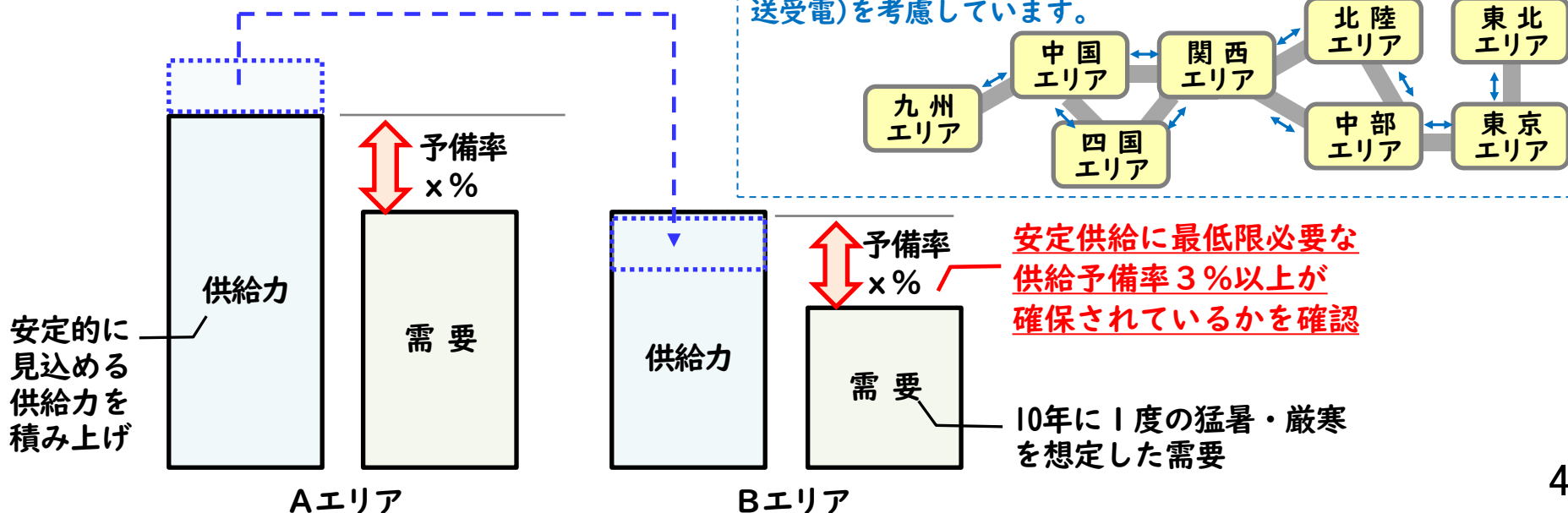
※3 9月は猛暑により高需要が想定される9月1日～18日の評価を記載。

- 猛暑・厳寒による冷暖房需要の増加を見込んだ需要想定と安定的に見込める供給力の積み上げ結果を比較し、安定供給が可能かどうかを検証するものです。
- 電力広域的運営推進機関が広域的な視点に基づき、連系線の活用等を考慮して需給バランス評価を行っています。
- 需給バランス評価は、最大需要時に加えて、太陽光の出力が減少する時間帯の予備率も確認するために最小予備率時の評価も行っています。

【需給バランス評価のイメージ】

連系線の空容量の範囲内で予備率が高いエリアから低いエリアへ供給力を移動(予備率の均平化)

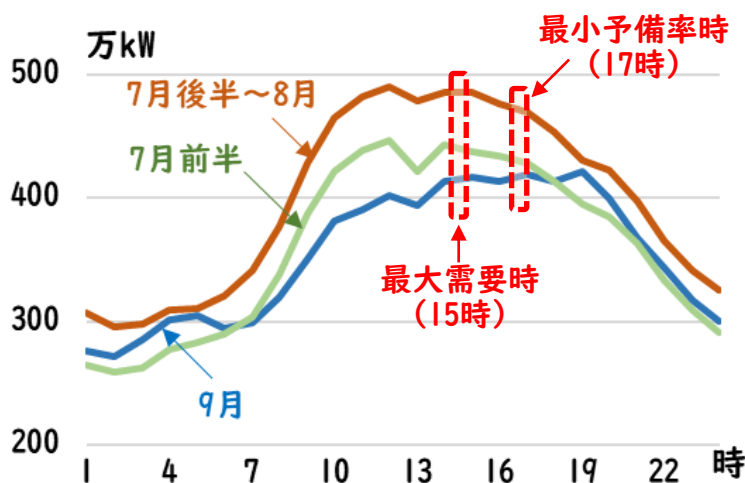
沖縄を除く全国9エリアは、地域間連系線で結ばれており、連系線の空容量の範囲内で各エリアの予備率が均平化されるように供給力の移動(連系線を通じた送受電)を考慮しています。



- 今夏の需要見通しは、過去10年で最も猛暑であった年度並みの気象影響を織り込んで想定しています。
※7～8月は2025年度並みの猛暑、9月は2020年度並みの猛暑を織り込み
- 一方、供給力見通しは、安定的に見込める供給力の積み上げた後、その一部が計画外停止等により、実際の運用断面で供給力に見込めない可能性を考慮しています。

【需要見通し】

- ・過去10年間で最も猛暑であった年度並みの気象影響を織り込んだ1日の需要を想定
- ・全国の最大需要時(15時)および最小予備率時(17時)の需要を採用



【供給力見通し】

- ・北海道エリア内の安定的に見込める供給力を積み上げ
7～8月：520～580万kW程度 9月：500万kW程度

計画外停止率2.6%(全国一律)を考慮

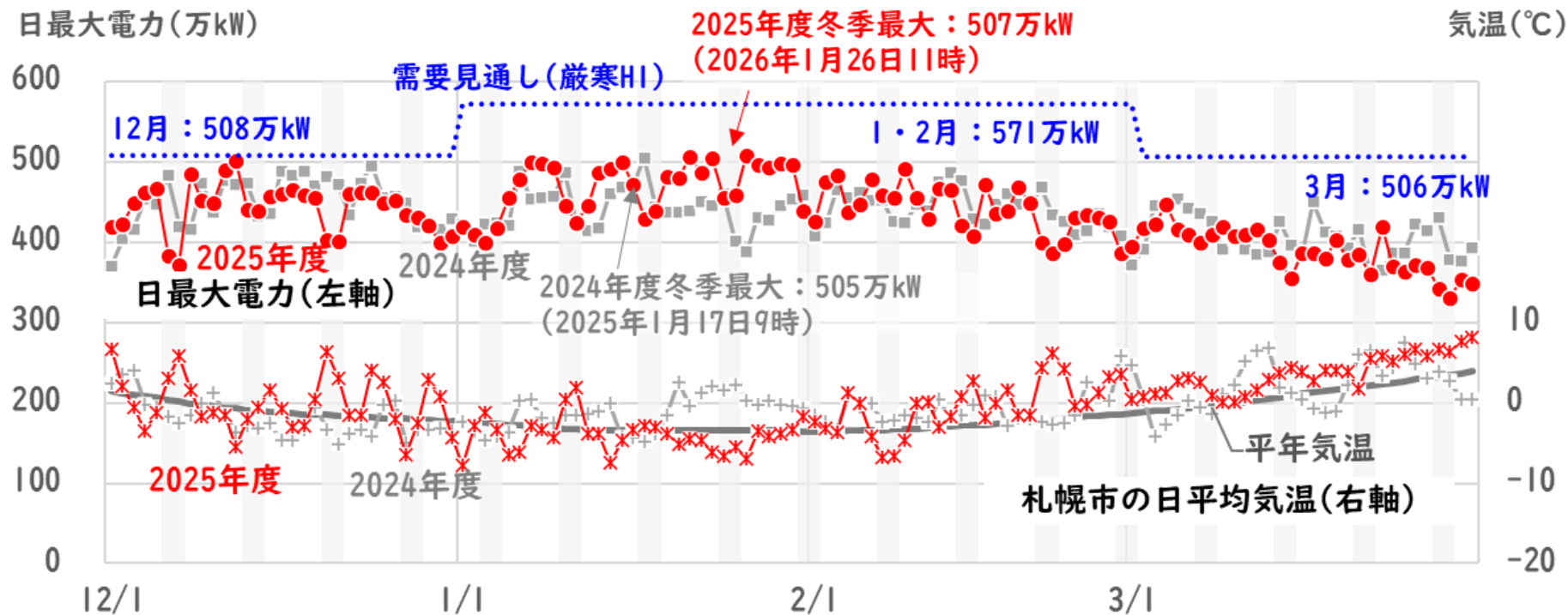
電力広域的運営推進機関が広域的な視点に基づき、連系線の活用等を考慮して評価 (p 4 参照)

(万kW)	7月前半	7月後半	8月前半	8月後半	9月
最大需要時(15時)	438	486	486	486	417
最小予備率時(17時)	428	470	470	470	419

【参考2】2025年度冬季（昨冬）の需給状況

- 昨冬の最大電力は、507万kW（2026年1月26日発生）でした。
- 最大電力の実績は、冬季を通じて見通し（12月：508万kW、1・2月：571万kW、3月：506万kW）を下回って推移しました。

【日最大電力と札幌市の日平均気温の推移】



【参考2】2025年度冬季（昨冬）の需給状況（つづき）

- 最大電力発生時の供給予備率は7.9%となり、電力の安定供給に最低限必要な予備率3%以上の供給力を確保していました。
- また、昨冬の電力の使用状況を示す使用率は、概ね97%以下（3%以上の供給予備率に相当）で推移しており、冬季を通じて需給は安定的に推移しました。

【昨冬の最大電力発生時の需給実績】

	実績 (2026年1月26日11時)	見通し※1	
		1月	2月
供給力 (万kW)	548	589	595
最大電力 (万kW)	507	565	571
供給予備力 (万kW)	41	24	24
供給予備率 (%)	7.9	4.3	4.2

※1 見通しは電力広域機関が連系線活用・計画外停止等を考慮して評価したもの

※ 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある

【昨冬の使用率実績（でんき予報）】

